プノンペンの平日（１）　～カンボジア法整備支援の日常～

ＪＩＣＡ長期派遣専門家
内　山　　淳

はじめに

「法整備支援」。

最近は，知名度が高まっています。本稿をお読みの方には，もはやその活動内容を詳しく説明する必要はないでしょう。

「長期派遣専門家（現地専門家）」。

こちらも，知名度が高まっていて，もはやその活動内容を詳しく説明する必要はないでしょう･･･と言いたいところですが，そうでもなさそうです。

漏れ聞こえる声に耳を傾けると，長期派遣専門家の日常は，意外と知られていないようです。これまでにも，カンボジアでの法整備支援の様子を長期派遣専門家が法律雑誌に寄稿した連載記事がありました[1]。今でも多くの人々が読んでいて，私も，この記事に触発されて，法整備支援に興味を持った一人です。ただ，連載当初から約１０年が経っていますので，カンボジアの状況も随分と変わっています。

そのような中で，私は，ICD からの依頼を受け，僭越ながら寄稿することになりました。『ローマの休日』のようなドラマティックな出来事で溢れているわけではないのですが，『プノンペンの平日』も捨てたものではありません。長期派遣専門家のささやかな日常をご紹介して，法整備支援の現場を少しでも実感してもらえたらありがたい限りです。

もし読者の皆さんからのご批判に耐えられれば，数回にわたり連載する予定です。

なお，本稿の中で意見にわたる部分は，専ら私見ですので，法務省やＪＩＣＡの公式見解ではありません。また，本稿は，学術論文ではないため，くだけた表現が多く含まれていますが，予めご容赦ください。

【目次】

１　平日の朝
２　平日の午前
３　平日の昼休み（以上，本号）
４　平日の午後
５　平日の夜
６　平日の特別行事
７　番外編「プノンペンの休日」

[1] 「カンボジアの法の夜明けーキムセンへの手紙」（柴田紀子，『法律のひろば』２００９年４月～２０１４年８月，ぎょうせい）

１　平日の朝

６：００　起きる

カンボジアの朝は早い。朝５時台には，ベッドに朝日が射し込み，屋外からは，運動する人の足音や出勤する車のエンジン音が響いてきます。

日本では夜型人間であった私も，カンボジアに来てから，少し早起きになりました。

８：００　出勤する

私の出勤時間は，午前８時頃。正確に言うと，午前８時過ぎ。正直に言うと，午前８時半。

私の住まいから職場までは，徒歩５分です。車道の喧騒を尻目に，考え事をしながら歩いていると，あっという間に到着します。幸い，プノンペン市内では珍しいのですが，歩道が整備されている区画であるため，歩きやすいです。逆に言えば，残念ながら，プノンペン市内の多くの地域は，歩道が十分には整備されていません。「歩道のあちらこちらで表面が陥没している」「駐車している車が歩道をふさいでいる」「突然バイクが歩道を走り抜けていく」「そもそも歩道がない」などの事情があって，ウォーキングには向かない場所ばかりです。

私の派遣先は，カンボジア司法省。首都プノンペンの中心部にあり，王宮の目の前に位置します。日本の法務省も，首都東京の中心部にあり，皇居の目の前に位置します。法を主管する省庁がこのような場所に配置されているのは，法治国家であることを明らかにするためとも言われています。

私の職場であるＪＩＣＡプロジェクト・オフィスは，司法省内の別館２階の一室です。この別館は，日本の支援で２００８年に建設されました。

【司法省別館】

【プロジェクトオフィス】

オフィスの扉を開けると，すでに出勤しているスタッフがこちらを向いてくれます。私が「おはようございます！」と一声かけると，スタッフも口々に「オハヨウゴザイマス！」とあいさつしてくれます。

私は，これを「オハヨウゴザイマス・プロジェクト」と勝手に名付けました。

オフィスには，合計６名のスタッフがいます。その内訳は，日本語・クメール語スタッフ３名，英語・クメール語スタッフ２名，事務担当スタッフ１名です。いずれもカンボジアの人た

ちなので，共通言語はクメール語になります。そのため，最初の頃は，私も「スオスダイ！」（クメール語の挨拶）と言ったり，日本語・クメール語スタッフには「おはようございます！」，英語・クメール語スタッフには「グッドモーニング！」と言ったりしていました。

しかし，何となく一体感が出ないので，英語・クメール語スタッフに「オハヨウゴザイマス」という挨拶だけを教えて，使ってもらうことにしました。

今では，英語・クメール語スタッフが自主的に覚えたらしく，「スミマセン」などの言葉も使い始めていて，日本語に興味を持ってもらえたようです。

複数の言語が飛び交うオフィスですが，日本語を理解するスタッフが多いので，私は，ついつい母語の日本語で話してしまいます。ときには冗談を言って，スタッフを笑わせますが，ふと視線を移すと，日本語を解しないスタッフの困った顔が見えます。

日本語，英語，クメール語。オフィス内で，どのようなときに，どの言語を使うのかについて，最近は，気を付けるようにしています。長期派遣専門家の仕事の１つは，オフィス内の人間関係を円滑にすることですから。

２　平日の午前

９：００　メールする

私の場合，出勤して最初にするのは，パソコンでのメールの確認。

カンボジアは，日本との時差がマイナス２時間なので，出勤時間の午前８時台でも，日本はすでに午前１０時台。そのため，出勤した頃には，すでにあちらこちらからメールが届いています。

カンボジア時間の午前１０時から午前１１時までは，日本の昼休み。

カンボジア時間の正午から午後２時までは，プロジェクト・オフィスの昼休み。

つまり，出勤してしばらくすると，日本が昼休みになり，日本の昼休みが終わると，すぐにカンボジアが昼休みになり，カンボジアの昼休みが終わると，もう日本は夕方になります。この時差は，意外と侮れません。

朝一番で前日からの懸案事項に対応していると，気付いたときには「あっ，もう日本は昼休みだ。」ということもしばしば。

意外と侮れないと言えば，ネット環境です。

カンボジアでは，街中にたくさんあるカフェやレストランなどに行けば，ほとんどのところで無料でＷｉ－Ｆｉを使えますので，日本に比べて，とても便利です。

しかし，電波状況はあまり良くありません。オフィスでは，インターネットやサーバーに接続するために，Ｗｉ－Ｆｉを利用しているのですが，毎日のように，一時的に接続できなくなります。メールを送れず，サーバーに保存しているファイルを利用できず，いつ復旧するのかと思いながら，ただ待つのみです。

日本なら，イライラしながら担当部署に連絡して，至急直してほしいと不満をぶつけるかもしれませんが，ここはカンボジア。長期派遣専門家には，忍耐と諦観が必要なときがあります。

１０:００　回答する

過去のプロジェクトのメンバーを含むカンボジアの法曹から，プロジェクトのスタッフを通じて長期派遣専門家に質問がよく届きます。たいていは，ＳＮＳで連絡がきます。ときには，オフィスに来てもらい，直接，質問を受けることもあります。

スタッフは，クメール語で届く質問を素早く日本語に翻訳し，それを受け取った長期派遣専門家が，日本の実務や文献を参考にしながら迅速に回答します。幸い，オフィス内には，少し版が古いものもありますが，日本の法律専門書が一通り揃っています。

質問への回答が遅くなれば，同じ回答内容でも「鮮度」が落ちてしまいます。しかし，鮮度抜群でも不正確ではいけません。

また，実務上直面している問題に由来する質問が多いので，単に論理的な結論だけを示しても満足してもらえません。カンボジアの実務や社会的な実情を踏まえる必要があります。そして，回答するときには，考え方の道筋を示す必要もあります。答えだけを教えたのでは，単なる便利屋になってしまうからです。

さらに，どこまで詳しく説明すべきかについても意識しないといけません。回答には，正確さと分かりやすさのバランスが重要です。ですから，日本語で詳しく解説された本を見つけても，それを翻訳して渡せばいいということになりません。長期派遣専門家が分かりやすい言い回しに直す必要があります。ここは腕の見せ所です。おそらく，分かりやすい日本語で言い換えられない概念は，クメール語に翻訳しても，その意味が正確には伝わらないでしょう。ときには，クメール語の訳語をスタッフに教えてもらいながら，言葉のニュアンスや意味がきちんと伝わるかどうかを検討しています。

法整備支援では，「言葉」がとても重要です。

１１:００　話し合う

オフィスには，長期派遣専門家として，検事，裁判官出身者，弁護士が各１名いるほか，プロジェクトの調整役である業務調整員がいます。スタッフからは，「法廷があれば，いつでも刑事裁判ができますね。」と冗談を言われたりします。

長期派遣専門家は，個室ではなく，スタッフと一緒に大きな部屋で働いています。それぞれの長期派遣専門家の席も隣同士ですので，いつもいろんなことを話し合っています。週末の予定やおいしいレストランの情報など･･･もちろん，プロジェクトのことも話し合っています。直面する問題や今後の方針などを４人で話し合っていると，新しいアイデアが浮かんだりします。三人寄れば文殊の知恵･･･いや，四人寄れば文殊の知恵です。

話し合うのは，何も長期派遣専門家同士ばかりではありません。スタッフとのミーティングを開催して，情報共有したり，日頃の困り事を聞いたりしています。

また，必要があれば，カウンターパートやワーキンググループのメンバー，カンボジアの法曹とも話し合います。

日本人同士でも，それぞれ経歴が異なります。カンボジアの人たちとは，言葉も文化も違います。ですから，長期派遣専門家にとっては，人と人とのコミュニケーションがとても重要で

す。

人間関係がうまくいけば，プロジェクト活動もうまくいきます。矛盾しているように聞こえるかもしれませんが，法整備支援の鍵は，「法律」ではなく，「人」です。

３　平日の昼休み

１２:００　食べる

オフィスの昼休みは，正午から午後２時までの２時間。日本より長いのは，魅力的です。おかげで，ゆっくりと食事しても，その後に少しばかり昼寝ができます。スタッフも，オフィス内のいすを並べた即席ベッドで，器用に寝ています。

昼休みには，親睦を深めるイベントを行うことがあります。仕事の後に大学院などへ通っているスタッフも多いため，夕食ではなく，昼食を利用しています。

例えば，月１回，「スタッフ・ランチ会」と称して，長期派遣専門家とスタッフが一緒に昼ごはんを食べています。お店は，スタッフに一任です。あの店がいい，この店に行きたいと言って，ひとしきり盛り上がります。結局，肉料理のお店になることが多いですが，今のところ，私の懐が寒くなるような高級店ではないので，ホッとしています。

また，毎週１回，「水曜ランチ会」と称して，長期派遣専門家だけで昼ごはんを食べています。新規オープンのお店，ディナーは高いけどランチはリーズナブルなお店などなど，そのときの気分で決めています。プノンペンには，予想以上に各国の料理店があります。日本，フランス，イタリア，中国，韓国，インドは言うに及ばず，東南アジア各国（ベトナム，タイ，インドネシア，ミャンマー）を始め，スペイン，メキシコ，ネパール，レバノン，モロッコ，エチオピア･･･。いずれも日本より値段が安く，ボリュームがある上，味も本格的です。ちょっとした世界旅行の気分です。

さらに，不定期ですが，スタッフや長期派遣専門家の誕生日には，ケーキを買ってみんなでお祝いをしています。少し残念なのは，プノンペンには，まだまだケーキ屋さんは少なく，ため息が漏れるほどおいしい味には，なかなか出会えません。甘党の私としては，「ため息」を求めて，引き続き，プノンペンを探検中です。

【スタッフ・ランチ会】

さて，今回は，「平日の昼休み」までをお伝えしましたが，いかがだったでしょうか？

私たちの日常の空気感が伝わったとしたら何よりです。

次回は，「平日の午後」からです。また，全国の始審裁判所の実情調査，現地でのセミナー，インターンシップの受入れなど，少し硬派な「平日の特別行事」もお伝えする予定です。

どうぞお楽しみに。

（つづく）